

【学術ポータル担当者研修】レポート提出 平成19年度(2007)

駒澤大学 図書館

受講者名	受講者番号
徳本 克彦	7000418
内山 敦	7001049
淵上 浩一	7000422

(1) 発表資料の状況設定

駒澤大学電子図書館の資料収集の問題として、紀要・論集を取り扱い始めているが、学内の知的財産に関する広報と図書館における保存・公開の重要性等を含めたものを学内の説明会の内容とした。説明会は、駒澤大学学術機関リポジトリを構築することを前提として、館内から説明会を始め、学長ほか教員事務部長の方々の理解を求める。そして、トップの方々の承認のうえで、図書館委員会と各学部等への説明会を開催する予定とした。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

研修会での発表したものは、学術機関リポジトリの意義と導入および構築を中心としたものである。研修会を受けたことで、説明にはもっと具体性のある事項を記載して利用者が理解でき、納得してもらえる内容を構成することが必要であると感じた。

講師の方々からは、著作物に関する著作権の扱いとオープンアクセスの必要性および説明対象者の設定との整合性についての説明責任を明確にするように指導された。研修会では様々なことの理解に時間を費やし、研修期間中に十分な思考の整理は出来なかったが終了後の時間の経過の中で徐々に研修会の意義が明確になってきた。

館内の説明会では、下記のようにプレゼン資料を再構成した。

- ・「駒澤大学学術機関リポジトリ」
 - 1 学術機関リポジトリとは
 - 2 図1 リポジトリとは・・・
 - 3 図2 世界のリポジトリ
 - 4 学術機関リポジトリの有用性
 - 5 駒澤大学学術機関リポジトリの意義
 - 6 収集コンテンツ
 - 7 著作権(学術雑誌掲載編)
 - 8 図3 編集・査読プロセスの例
 - 9 構築にあたって
 - 10 システムの構築
 - 11 リポジトリの仕組み
 - 12 最後に
 - 13 アンケート(教員専用)

説明に際して、2, 3についての具体例を明示した。6の項目確認と7を事例として広報の役割を持たせた。学内の仕組みを11の図で説明を加え理解を深めてもらう内容に変更した。説明会終了後にアンケートの実施を行う。

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

○駒澤大学の学術機関リポジトリの導入検討(兼:学術ポータル担当者研修の報告会)

1. 開催日時: 平成19年7月27日(金)11:00~11:45
2. 場 所: 副館長室会議室
3. テー マ: 駒澤大学の学術機関リポジトリ導入について

4. 出席者： 図書館長、図書館副館長、運営課課長、情報サービス課課長
運営課コンテンツ係係員 1 名、図書館システム担当 1 名 ……6 名
・プレゼン資料は、研修会で使用したものに追加をして再構成したものを使用した。

○駒澤大学の学術機関リポジトリの導入推進説明会

1. 開催日時： 平成 19 年 10 月 31 日(水) 14:20～15:05
2. 場 所： 本館9階会議室
3. テー マ： 駒澤大学の学術機関リポジトリ導入について
4. 出席者： 学長、副学長、教務部長、学生部長、図書館長、
総合情報センター所長、佐藤千春入学センター所長
国際センター所長、保健管理センター所長 ……9 名
・プレゼン資料は、学内説明会用として再構成したものを使用した。

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

図書館内と学内教員部長会へ、プレゼンを行った結果、参加した方の多くは賛同をされているようです。しかし、実際に稼動することになった場合は少数の方の参加になると思われる。なぜならば、アンケートの結果を見ますと学術論文の多くはデジタル化しているようですが、保存していない？、出版社任せの投稿、著作権の認識にも薄く、アンケートにも一部未記入という状況を考察しますと、今後も広報活動を進めながら、システムの構築を進めることになると考えています。

(5) その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

現状および提案の内容の確認と理解についてプレゼンを通して行う。図書館委員会および各学部等への広報活動の環境として、「駒澤大学学術機関リポジトリ」の運営に関わる委員会の設置を求めて行くことの 2 点の提案を行う。同時に学内用として、学術機関リポジトリシステムの構築を行いテスト環境を稼動させて、実際に使用を試みながら推進して行く。なお、実施時期については図書館システムのリプレース時に行うことを検討する。(平成 21 年度 4 月を予定)

以 上